



ワンランク上の モバイル コンピューティング



実践テクニックを徹底解説

山田祥平
編集部



ノートパソコンを購入した。PCカードもそろえた。もちろんプロバイダーには加入済み。これでモバイル環境は完璧だ。と、思ったら「これでいったい何ができるの？」なんて疑問がわき起こってきた人はいないだろうか。いやいや、やりたいことはたくさんあるんだけど、どうやればできるのかが分からない。こんな声も聞こえて来そうだ。

先月号の特集「実践モバイルコンピューティング」では、PHSを使ったデータ通信をはじめとして、モバイルに必要な環境を詳しく解説した。

そこで、今月の集中企画では、モバイルになくてはならない「実践テクニック」をまとめて紹介しよう。これさえ知っていれば、誰でもワンランク上のモバイル使いになれるはずだ。



必須アイテムを総点検しよう



これでモバイル環境が すべてそろろう

先月号の特集をじっくり読んだという人は、すでに完璧なモバイル環境がそろっていることだろう。中には、「買い物をするのはボーナスをもらってから」という人もいるかもしれない。どちらにしても、実践テクニックを見ていく前に、モバイルになくはならない「必須アイテム」をもう一度おさらいしておこう。ここで挙げるリストは、購入ガイドであるとともに、出かけるときのチェックリストにもなる。道具がそろっている人は、これを見てカバンの中身を点検しよう。忘れ物は厳禁だ。

アイテム1

電話回線

使う回線の種類に応じた端末を用意したか

ISDN 公衆電話を使うなら
テレホンカードは必須だ。
32K データ通信を行うなら
デジタル携帯電話やPHSを購
入しよう。



アイテム2

PCカード

端末の種類に応じたPCカードを用意したか



デジタルセルラーカ
ード、PIAFSカード、
モデムカード、TAカ
ードなど、端末の種類に合ったPCカードを用意しよう。
ケーブル類も忘れずに。

アイテム3

ノートパソコン

ノートパソコンやサブノートなど、PCの設定は万全か

プラグアンドプレイで
パソコンにカードを認
識させ、各メーカー
から提供されるイン
フォメーションデ
ィスクを使ってドラ
イバーを登録しておこう。



アイテム4

オペレーティングシステム

ダイヤルアップ接続に必要なモジュールは組み込んだか



TCP/IPなどのプロトコルや、イ
ンターネットにつなぐためのダイ
アルアップPPP接続に必要なモジ
ュールをセットアップしておこう。

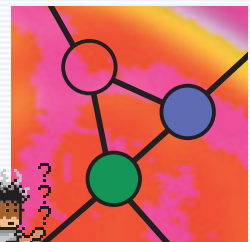


アイテム5

プロバイダー

インターネットサービスプロバイダーに加入したか

移動が想定される地域内に
あるアクセスポイントの電
話番号は、忘れずに控えて
おこう。それぞれのネーム
サーバーアドレスも要チェ
ックだ。



アイテム3

アプリケーション

モバイルに必要なアプリケーションはセットアップしたか

WWWブラウザ、電子メールソフト、スケジュール管理や
住所録などモバイル環境で必要になるアプリケーションは、
すべてセットアップしておこう。



そろえた道具を 120パーセント活用しよう



モバイルでこんなことが してみたい

1 場所を選ばずにインターネット にアクセスしたい

機動力が売り物のモバイル。いつでもどこでも自由にインターネットにアクセスしたい。ある時は自宅から、またある時は別の都道府県から。これには、アクセスポイント別ダイヤルアップ接続の設定が必要だ。

2 デスクトップPCと同じ環境を 作りたい

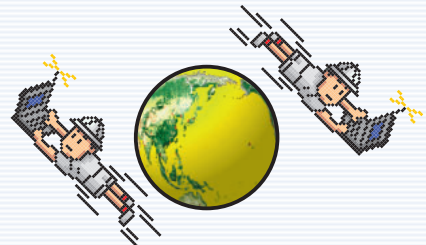
モバイルの理想は、「持ち運びできるデスクトップPC」だ。これなら、オフィスから離れていても普段と同じ仕事ができる。ファイルやスケジュールなど、さまざまな設定をこの2つの環境で同期させよう。

3 電子メールを快適に使いたい

仕事の大事な連絡も電子メールでやり取りすることが少なくないはずだ。出張先においても、いつもと同じように情報のやり取りができる。オフィスとモバイルとでメールを使う環境をうまく切り替えよう。

4 自宅のコンピュータにリモート アクセスしたい

外にいても、自宅のコンピュータにリモートアクセスすれば、いつでも情報を取り出せる。ここでは設定が手軽な、「ダイヤルアップサーバー」を使って自宅のコンピュータにリモートアクセスしてみよう。



5 世界中どこからでもアクセス したい

海外に行くならモバイルは必携。高い料金を気にしながら、国際電話で日本と連絡をとる時代は終わった。海外でこそインターネットの恩恵を十分に味わえるのだ。ぜひ、現地のプロバイダーと契約しよう。

参加している環境を 確認しよう

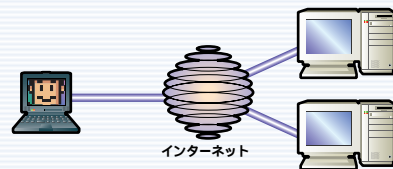


モバイルが活躍する さまざまなネットワーク環境

ここで紹介する実践テクニックを活用するためのネットワーク環境はさまざまだ。あるときはプロバイダー経由で、またあるときは社内のLANでつながれたネットワークでと、活躍の場はたくさんある。これから紹介するTIPSには、分かりやすいように環境アイコンを付けてみた。実際に使ってみる前に、下図と照らし合わせて、自分がどんな環境でネットワークに参加しているのかを確認して欲しい。



プロバイダー経由で
インターネットに接続



プロバイダー経由で社内のPOPサーバーやSMTPサーバーにアクセスすることもできる。自宅や海外からのメールの送受信には欠かせない環境だ。



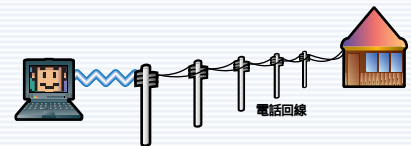
LAN環境で
つながれた
社内ネットワーク



オフィスのネットワークにノートパソコンが接続されている状態。普段使うデスクトップPCとのファイルの共有や、データの同期などの利用法が考えられる。



モデムを使った
リモートアクセス



自宅のコンピュータをダイヤルアップサーバーに設定して、ノート側からの電話の呼び出しに応答するようにする。いわゆるピアツーピアの接続だ。



アクセスポイント別ダイヤルアップの設定

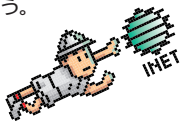
「ダイヤルアップの設定は必要なだけ作る」これがポイントだ。どこに行くかが決

まったら、移動先に想定される各所の最寄りのアクセスポイントを登録しておこう。これが市外通話になってしまうようでは、コストの負担が大きくなりすぎる。どこからつないでも普段と同じ環境が得られるからこそ、インターネットは便利なのだ。

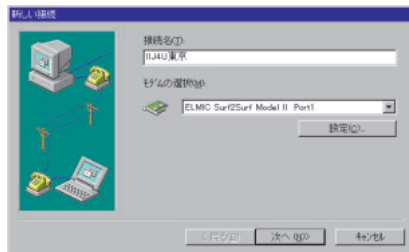
ウィンドウズの場合



マイコンピュータからダイヤルアップネットワークを開き、「新しい接続」で加入しているプロバイダーのアクセスポイントを登録する。使用するモデムと電話番号を入力すると新しいアイコンができる。詳細はこのアイコンを右クリックして、プロパティのダイアログを呼び出して設定する。このダイアログは、ウィンドウズ95のバージョンによって多少異なっている。サーバーの種類は「PPP: Windows 95、Windows NT 3.5、インターネット」とする。初期設定では、使用できるネットワークプロトコルとしてTCP/IP以外にもチェックされているが、必要のないプロトコルのチェックははずしておこう。



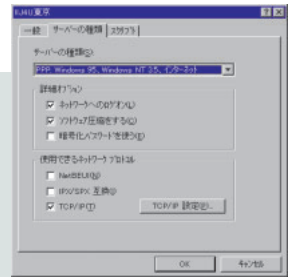
- ① 「新しい接続」を開くと、接続名とモデムを選択できるダイアログが開く。



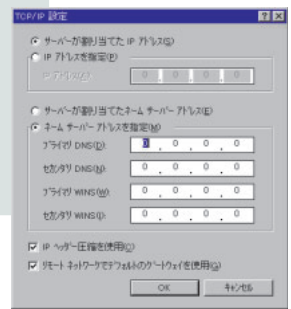
- ② 接続先の電話番号を入力する。市外局番にはゼロを付けなくてよい。



- ③ できあがったアイコンのプロパティダイアログ。「サーバーの種類」タブから、詳細設定を行う。



- ④ TCP/IPの設定では、ネームサーバーアドレスを入力しておく。以上の手順で、アクセスポイントごとに分かりやすい名前を付けたアイコンを作っておけば便利だ。

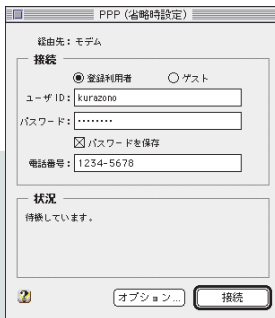


マッキントッシュの場合

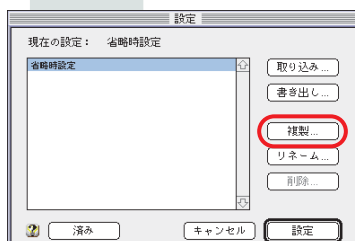


最新のOSであるMacOS 7.6から、アップル製のPPPソフト「Open Transport PPP」が登場した。これによって、特別なソフトウェアなどを利用しなくても複数の接続先の設定が簡単にできるようになった。もし、MacOS 7.6より前のバージョンのOSを使用しているなら、本誌のCD-ROMにも収録されている「Free PPP」というPPPソフトを使おう。また、注意したいのは、ダイヤルの「トーン」と「パルス」の設定で、マッキントッシュの場合、コントロールパネルにある「モデム」で設定する。こちらは複数の設定はできないので、必要に応じて変更しよう。

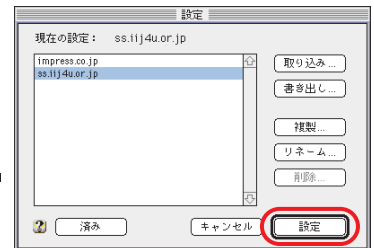
- ① 「新しい接続」を開くと、接続名とモデムを選択できるダイアログが開く。



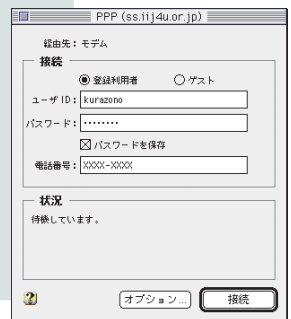
- ② 「ファイル」メニューから「設定」を選び、1つ目の接続先を選択して「複製」ボタンを押し、名前を付けて保存する。



- ③ ②で作成した接続先を選び、「設定」をボタンを押す。



- ④ 2つ目の接続先の設定をする。以上の手順で、アクセスポイントごとに設定を作る。「リネーム」ボタンで設定の名前が変更できるので、分かりやすい名前を付けておこう。





その1. スケジュールを同期させるには

まずは、デスクトップPCと同様の作業をするためにアプリケーションをセットアップする。

問題は、それぞれのデータをどのように管理するかということだ。特に、スケジュールやアドレス帳を管理する場合、モバイル側とデスクトップ側とのデータの同期が重要なポイントとなる。これができれば、両者は常に最新の状態になる。

マイクロソフトSchedule+ の場合

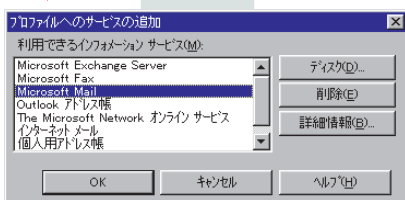
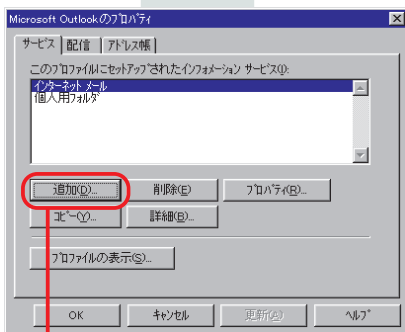


アウトLOOK 97の登場で一世代前のバージョンとなったが、デスクトップPCとノートがLANで接続できる環境があるなら、こちらのほうが簡単にデータを同期できる。この機能を使う場合、初めにウィンドウズのエクステンジをセットアップしておく。

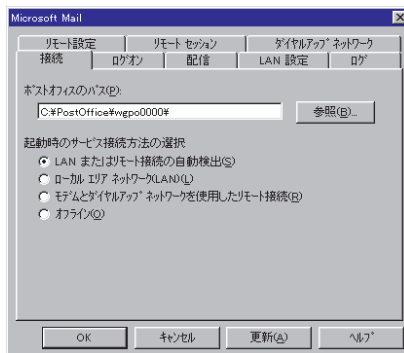
① デスクトップPC側で、コントロールパネルから「Microsoft Mailポストオフィス」を開き、新しいポストオフィスを作る。



② デスクトップPCとノートともに、「受信トレイ」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選ぶ。「追加」ボタンを押す。次のウィンドウで「Microsoft Mail」を選び、「OK」を押す。

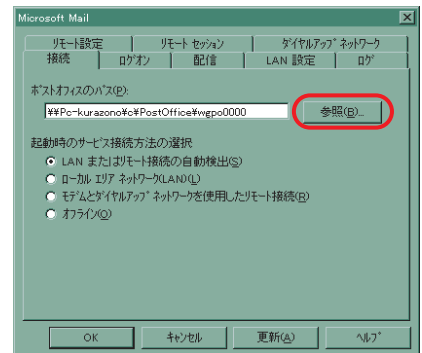


③ 次のウィンドウで、デスクトップ側はそのまま「OK」を押す。ノート側は、①で作成したデスクトップPC側のポストオフィスを参照する。



デスクトップPC側

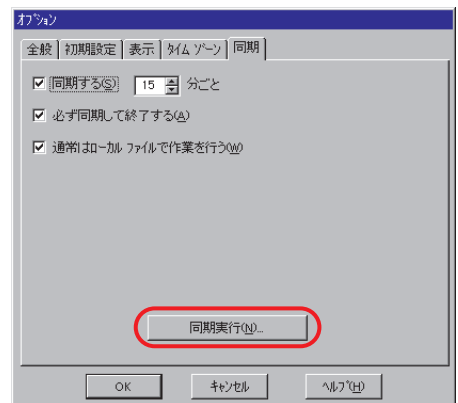
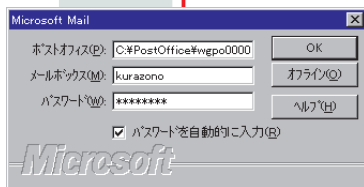
自動的にポストオフィスの場所が登録されるので、このまま「OK」を押す。



ノートパソコン側

「参照」を押して、ネットワークコンピュータからデスクトップPCのポストオフィス(wgpo0000というフォルダー)を選択する。

④ それぞれのSchedule+を起動すると、「Microsoft Mail」のログイン画面が出るので、①で設定したパスワードを入力する。「ツール」から「オプション」を選び、「同期実行」を押す。これで、デスクトップPCとノートともにスケジュールデータが最新のものに更新される。



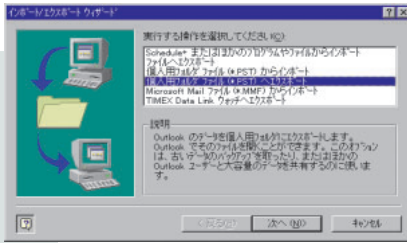


マイクロソフトアウトルック97の場合



データの同期機能は用意されているが、マイクロソフトエクスチェンジャーが必須だ。これがない環境では、「ツール」メニューの「同期」がグレーになっている。ここでは、同期の代わりにインポートとエクスポートを使ってデータを更新しよう。

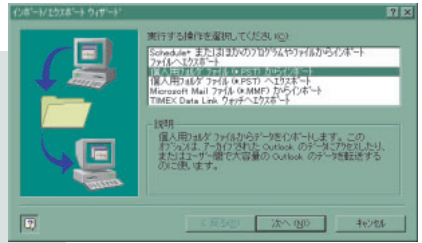
① デスクトップPCとノートでデータの新しいほうのアウトルックを起動して、「ファイル」メニューから「インポートとエクスポート」を選ぶ。ウィザード画面で「個人用フォルダファイルへエクスポート」を選び、「次へ」を押す。



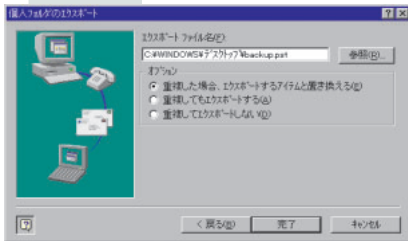
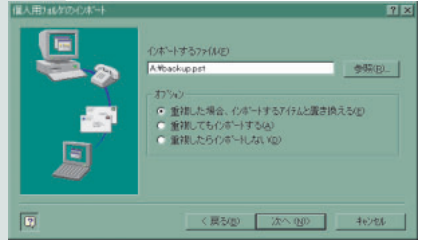
② 「予定表」を選んで「次へ」を押す。「参照」を押して、デスクトップなどの分かりやすい場所を選んで「完了」を押す。これで、「backup.pst」というファイルができあがる。



③ フロッピーディスクなどに②で作成した「backup.pst」を保存する。データの古いほうのアウトルックの「ファイル」メニューから「インポートとエクスポート」を選ぶ。ウィザード画面で「個人用フォルダファイルからインポート」を選び「次へ」を押す。



④ 「インポートするファイル」で、②で保存した「backup.pst」を選び、「次へ」を押す。「予定表」を選んで「完了」を押せば、2つのアウトルックのデータが同じ内容になる。

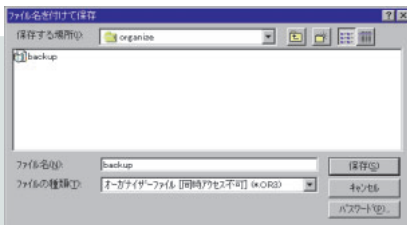


ロータスオーガナイザー97の場合



アウトルック97ではデータのインポートとエクスポートという方法を使った。同じような機能として、ロータスオーガナイザー97には「マージ」という便利なものがある。これを使うことで、2つのデータの差分だけを取り込むことができる。

① デスクトップPCとノートでデータの新しいほうのオーガナイザーを起動して、スケジュールデータを名前を付けて保存する。



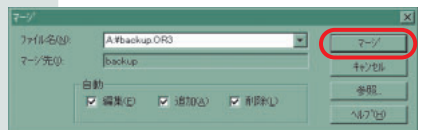
② フロッピーディスクなどに②で作成したファイルを保存する。データの古いほうのオーガナイザーの「ファイル」メニューから「マージ」を選び、「参照」を押す。



③ 参照ウィンドウで、①で保存したファイルを選択して「開く」を押す。



④ マージウィンドウに戻る。必要に応じて「自動」の3つの項目、「編集」、「追加」、「削除」にチェックを付けて「マージ」を押す。これで2つのオーガナイザーのデータが1つにまとめられる。3つのオプションの意味は右記のとおりだ。



編集：マージ元の編集内容をすべて反映させる
追加：マージ元の追加内容をすべて反映させる
削除：マージ元の削除内容をすべて反映させる



その2. ファイルを管理するには

オフィスのコンピュータにあるファイルをノートにコピーして持ち帰り、自宅で続きの作業をした。これを再び

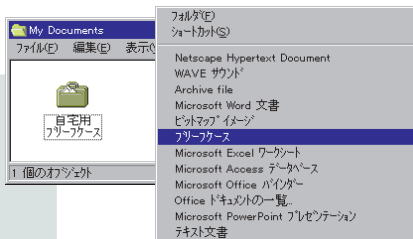
オフィスに戻して編集したい。気を付けなければならないのは、この時点で、バージョンの異なる2つのファイルが存在するということだ。こんなとき、どうすれば上手にファイルを更新できるかを見てみよう。

ウィンドウズの場合

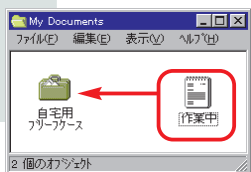


ウィンドウズでは「ブリーフケース」を使うのが最も手軽だ。オリジナルファイルとブリーフケース内のファイルの更新時刻をそれぞれチェックし、どのような変更が加えられたのかを提示してくれる。ファイルの更新もボタン1つでできてしまう。

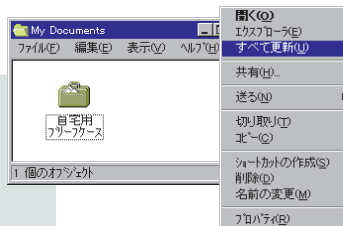
① 好きなフォルダー内で右クリックをして「新規作成」を選べば、新しいブリーフケースが作れる。分かりやすい名前を付けておこう。



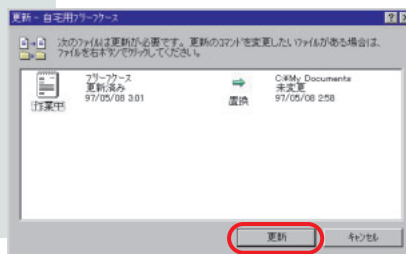
② 持ち帰るファイルをブリーフケースにドラッグアンドドロップ。ブリーフケースごとフロッピーディスクやネットワーク経由でノートに移動する。自宅でこれを編集する。



③ オフィスに戻ったら、ネットワークにノートを接続する。フロッピーディスクを使った場合は、編集済みのブリーフケースが入ったディスクをデスクトップPCに装着する。ブリーフケースを右クリックして「すべて更新」を選ぶ。



④ 「更新ウィンドウ」で内容を確認する。「更新」を押すと、オフィス側のファイルに自宅での編集内容が反映される。



マッキントッシュの場合



CD-ROM収録先: **Mac SwitchBack**
入手先: <http://www.bridge1.com/>



マッキントッシュでは、パワーブック用に「ファイル・アシスタント」という機能が用意されているが、ここではより便利な「SwitchBack」というシェアウェアを使ってみよう。登録した2つのフォルダー内のファイルの更新時刻をそれぞれチェックし、変更がある場合は自動的に更新してくれる優れたものだ。

① 自宅に持ち帰るファイルを入れるフォルダーを作る。フロッピーディスクの場合はこれを挿入しておく。「SwitchBack」を起動したら、「元フォルダ」のアイコンを選択する。あらかじめ用意しておいたフォルダーやフロッピーディスクを選び「選択する:」ボタンを押す。次に「コピー先フォルダ」を選択する。「選択する:」ボタンを押して、持ち帰るファイルが入っているフォルダーを選択する。「逆バックアップする」のチェックをはずしておく。この設定を名前を付けて保存する。

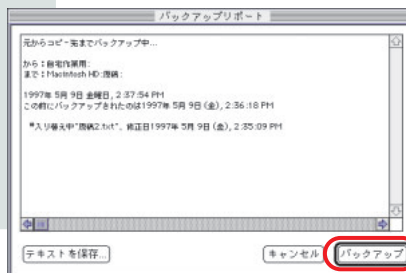


② 持ち帰るファイルを「元フォルダ」に指定したフォルダにコピーする。自宅でこれを編集する。

③ オフィスに戻ったら、ネットワークにノートパソコンを接続する。フロッピーディスクを使った場合は、デスクトップパソコンにディスクを挿入する。保存しておいた「SwitchBack」ファイルをダブルクリックしてSwitchBackを起動する。「バックアップ」ボタンを押す。



④ 「バックアップリポート」で内容を確認して「バックアップ」を押す。次に「継続」を押すと、オフィス側のファイルに自宅での編集内容が反映される。





その1. サーバーにメールを残すには

モバイル環境があれば、自宅から、出張先から、オフィスに送られてきたメッセージが読める。でも、大切なメールがデスクトップPCとノートとに分散してしまうようでは困る。ノートでメールを読みつつ、オフィスのPCでメッセージを取得するまではサーバーにコピーを残しておきたい。ここではこの設定を詳しく解説していこう。

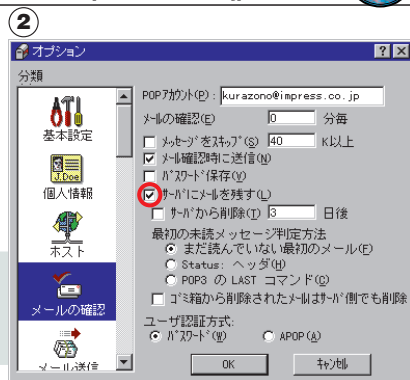
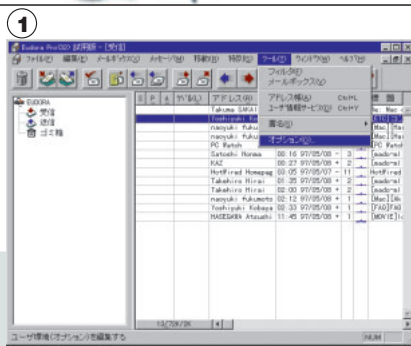
EUDORA PRO 3.0-Jの場合

CD-ROM収録先: Win Eudorap (試用版)
Mac EudoraPro (試用版)
入手先: <http://www.neis.co.jp/>



EUDORA PROの場合、サーバーに残したメッセージを指定した日以降に自動的に削除するか、ゴミ箱から削除されたメッセージをサーバーから削除するかのそれぞれが設定できる。

- ① 「ツール」メニューから「オプション」を選び、分類を「メールの確認」にする。
- ② 「サーバにメールを残す」にチェックを付ける。すぐ下の「サーバから削除 - 日後」と「ゴミ箱から削除された～」はチェックしないほうが無難だろう。



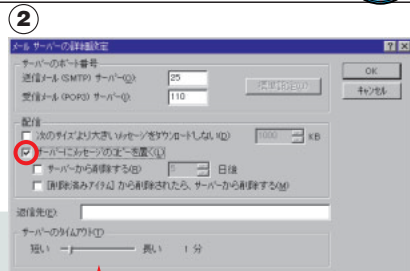
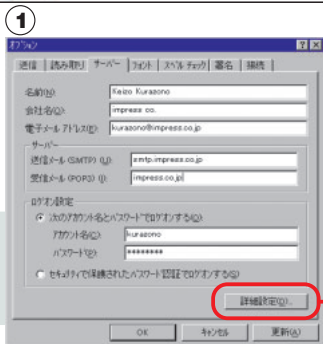
インターネットメールの場合

CD-ROM収録先: Win Msie
入手先: http://www.microsoft.com/ie_intl/ja/



EUDORA PROと同様に、何日後にサーバーからコピーを削除するか、「削除済みアイテム」から削除されたらサーバーからも削除するかがそれぞれ選択できる。

- ① 「メール」メニューから「オプション」を選び、「サーバー」タブをクリックする。「詳細設定」を押す。
- ② 「配信」欄の「サーバーにメッセージのコピーを置く」にチェックを付ける。EUDORA PROの場合と同様に、その下の2つのオプションははずしておくのがおすすめ。



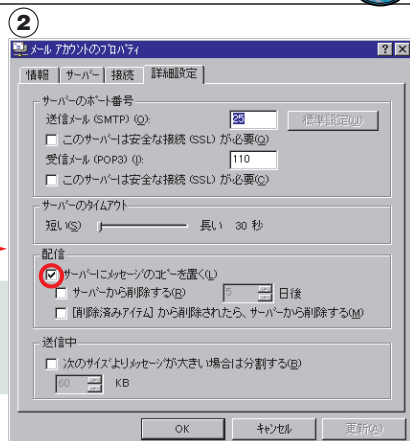
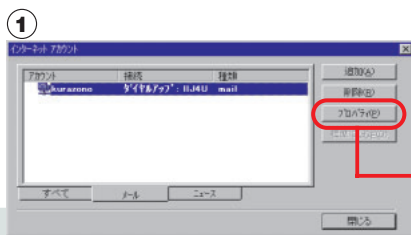
アウトルックエクスプレスの場合

CD-ROM収録先: Win Msie40
入手先: <http://www.microsoft.com/ie/ie40/>



インターネットエクスプローラ4.0と同梱されている最新のメールソフト。多機能なだけに、どこでサーバーにコピーを残す設定をするかが分かりづらくなった。

- ① 「ツール」メニューから「アカウント」を選ぶ。アカウントウィンドウで「メール」を選ぶ。設定したいアカウントを選び「プロパティ」を押す。
- ② 「メールアカウントのプロパティ」ウィンドウで「詳細設定」を選ぶ。「配信」欄の「サーバーにメッセージのコピーを置く」にチェックを付ける。



ネットスケープメッセンジャーの場合



CD-ROM収録先: **Win Communi** (試用版)
Mac NetscapeCommunicator (試用版)

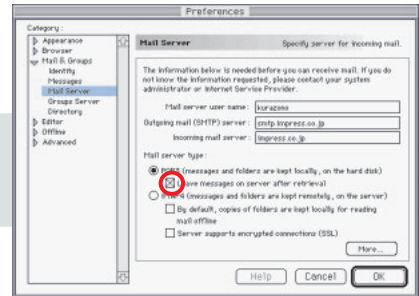
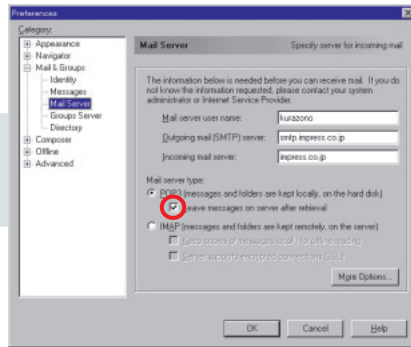
入手先: http://home.netscape.com/comprod/mirror/client_download.html



ネットスケープコミュニケーターに同梱される多機能メールソフト。現在の英語版ではメニューもすべて英語で表記されているため、設定が分かりづらいかもしれない。

① 「Edit」メニューから「Preference」を選ぶ。

② 「Mail & Groups」の右の「+」マークをクリックする。ツリー状に表示された項目の中から「Mail Server」を選ぶ。「Mail Server Type:」欄の「Leave messages on server after retrieval」にチェックを付ける。



● マッキントッシュ版
 ○ ウィンドウズ版

マイクロソフトアウトルック 97 の場合

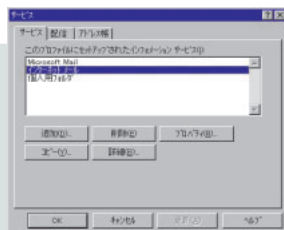


アウトルックでは、ほかのメールソフトとは異なり、「リモートメール」という機能を使う。これは、サーバーにあるメッセージのヘッダーだけをダウンロードして、このなかのメッセージを取得するかコピーするかを選べるという機能だ。このうちの「コピー」を使えば、サーバーにメッセージを残せる。大量にメッセージがある場合も、読みたいメールだけを選んでダウンロードできるため、接続時間を節約できる。

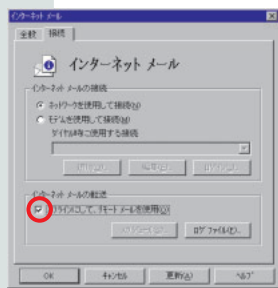


ダウンロードしたヘッダーやメッセージのコピーを削除すると、サーバー側のメールも削除されるので注意しよう。

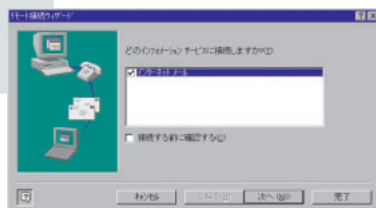
① 「ツール」メニューから「サービス」を選び、「インターネットメール」を選択する。「プロパティ」を押す。



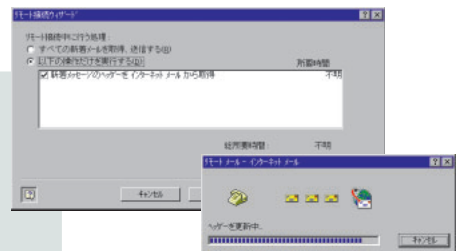
② プロパティウィンドウで「接続」タブを選び、「オフラインにして、リモートメールを使う」にチェックを付ける。



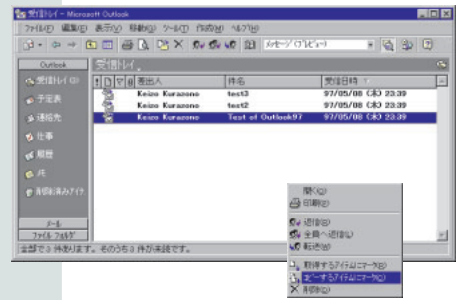
③ アウトルックを再起動する。「ツール」メニューの「リモートメール」から「接続」を選ぶ。「リモート接続ウィザード」で「インターネットメール」を選んで「次へ」を押す。



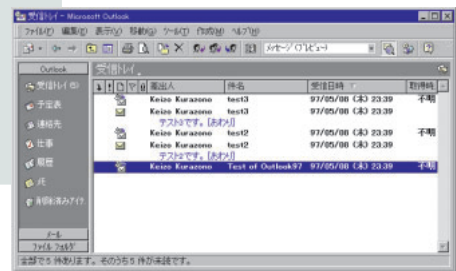
④ 「新着メッセージのヘッダーをインターネットメールから取得」にチェックを付けて「完了」を押す。これでサーバーからヘッダーが送られてくる。



⑤ 受信トレイにヘッダーの一覧が表示される。内容が読みたいヘッダーを右クリックして「コピーするアイテムにマーク」を選ぶ。



⑥ ③の手順を繰り返す。コピーするアイテムの一覧が表示されるので、確認して「完了」を押す。これで、メッセージのコピーが送られてくる。





その2. プロファイルを切り替えるには

プロバイダー経由でインターネット

に接続すれば、社内のPOPサーバーからメールを取得できる。それぞれの設定は管理者に問い合わせれば分かるはずだ。つまり、社内でメールを読む場合と、外からプロバイダー経由で社内のPOPサーバーにアクセスする場合と、2つのアカウントが必要になる。これをすばやく切り替えるテクニックが必須だ。

EUDORA PRO 3.0-Jの場合



CD-ROM収録先: **Win Eudorap** (試用版)
Mac EudoraPro (試用版)
入手先: <http://www.neis.co.jp/>

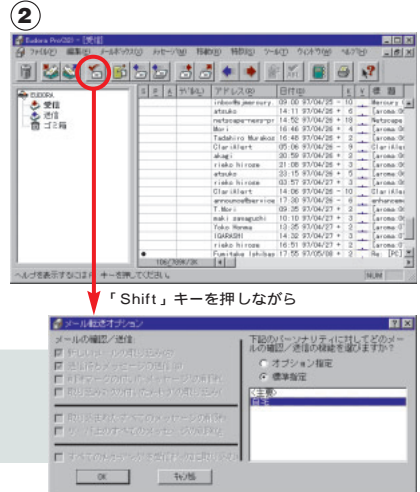


社内用とプロバイダー経由用の、2つのプロファイルを登録しておけば、送受信の際に「Shift」キーを押すことで、どちらを使用するかが選べる。多くのソフトのなかでも、操作が最も手軽だ。

① 「ツール」メニューの「オプション」を選び、分類を「パーソナリティ」にする。「新規」を押して、社内用、プロバイダー経由用のそれぞれのプロファイルを登録する。



② 「Shift」キーを押しながら「メールの確認」を押す。プロファイルの一覧が表示されるので、任意のものを選ぶ。この際に、「Ctrl」キーを押しながら複数を選ぶと、選択したすべてのメールサーバーからメッセージをダウンロードしてくれる。



ネットスケープメッセンジャーの場合

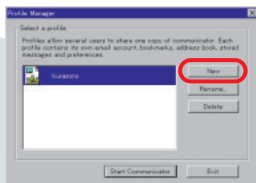


CD-ROM収録先: **Win Communi** (試用版)
Mac NetscapeCommunicator (試用版)
入手先: http://home.netscape.com/comprod/mirror/client_download.html



コミュニケーターに同梱される「User Profile Manager」を使う。ここでプロファイルを登録すると、WWWブラウザなど、すべてのツールの設定に反映される。

① ウィンドウズはスタートメニューの「Netscape Communicator」から、マックは「Netscape Communicator」フォルダーの中からそれぞれ「User Profile Manager」を起動する。「New」を押す。



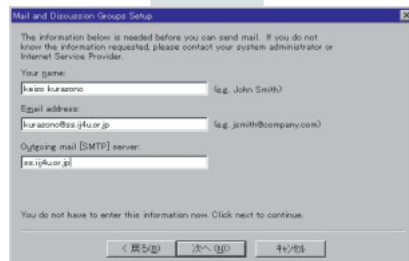
② 英語の解説が出たら「次へ」を押し、次のウィンドウで「Full Name」に名前を、「Email Address」に新しく登録するメールアドレスを記入し「次へ」を押す。



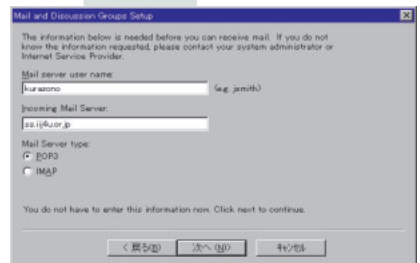
③ 「Profile name」に分かりやすいプロフィール名を入れる。この下の欄が重要だ。ここには、すでにあるプロファイル用のフォルダー名が表示される。このままだと、新しいプロファイルが上書きされてしまう。必ずフォルダー名を書き換えよう。「次へ」を押す。



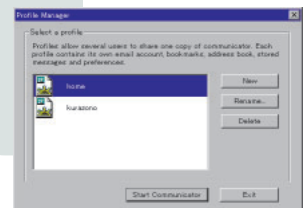
④ 「Outgoing mail [SMTP] server」に新しく登録するSMTPサーバー名を記入する。これ以外の欄はそのままにして、「次へ」を押す。



⑤ 「Mail server user name」に新しく登録するメールアドレスを、「incoming Mail Server」にそのPOP3サーバー名をそれぞれ記入して「次へ」を押す。ニュースグループを使用するなら、ニュースサーバー名を記入して「完了」を押す。



⑥ 次回から、メッセンジャーを起動する際にプロファイルの一覧が表示される。任意のものを選んで「Start communicator」を押す。起動したら、フォントや言語などの設定をする。



アウトLOOKエクスプレスの場合

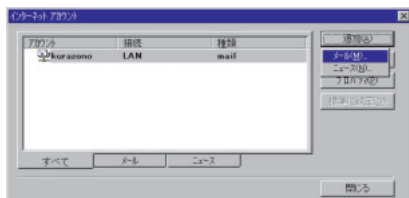


CD-ROM収録先: Win Msie40

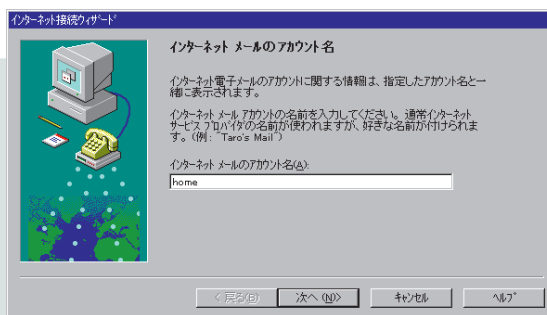
入手先: <http://www.microsoft.com/ie/ie40/>

インターネットメールではプロファイルの切り替えはできなかったが、このバージョンから強力な「アカウント」機能が導入された。設定もウィザードに従うだけで。

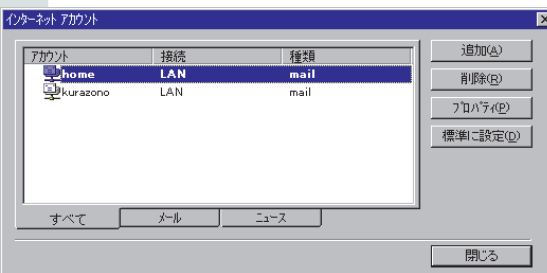
- ① 「ツール」メニューから「アカウント」を選ぶ。「追加」ボタンから「メール」を選ぶ。



- ② ウィザードに沿って必要事項を記入する。1枚目のウィンドウにある「インターネットメールのアカウント名」には、プロファイルを区別するための分かりやすい名前を付ける。



- ③ 設定が終わると、インターネットアカウントに作成したプロファイルが表示される。任意のものを選んで「標準に設定」を押すと、プロファイルが切り替わる。

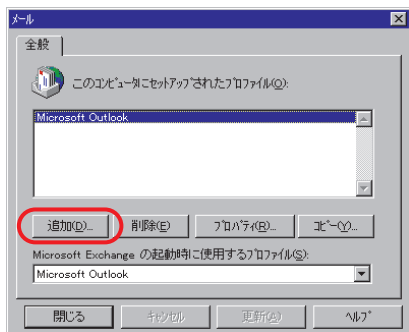


マイクロソフトアウトLOOK 97の場合

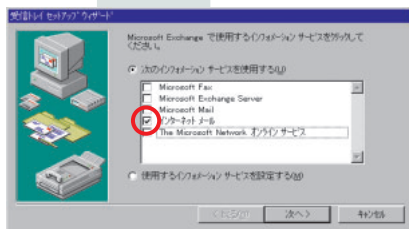


アウトLOOK 97では、サービスの追加という方法でメッセージ関連のモジュールを組み込む。この組み合わせが、プロファイルとして保存される。これで、アウトLOOKを起動するたびにプロファイルを選ぶリストボックスが表示されるようになる。

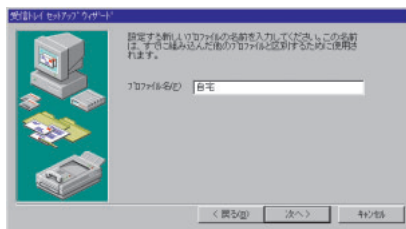
- ① コントロールパネルの「メール」を開き、「プロファイルの表示」を押す。「全般」ウィンドウで「追加」を押す。



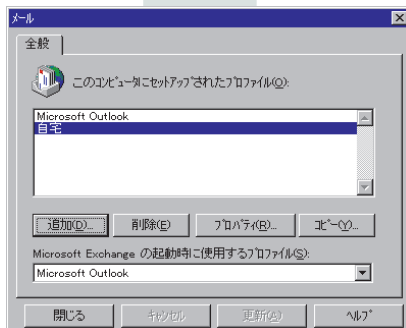
- ② 「受信トレイセットアップウィザード」で「インターネットメール」にチェックを付けて、「次へ」を押す。



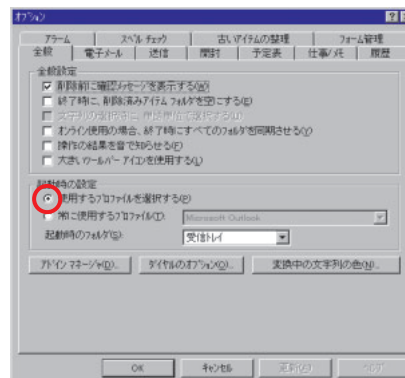
- ③ ウィザードに沿って必要事項を記入する。1枚目の「プロファイル名」には、プロファイルを区別するための分かりやすい名前を付ける。



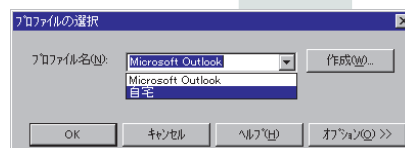
- ④ ウィザードが終わると、「全般」ウィンドウに新しいプロファイルが追加される。「閉じる」を押す。



- ⑤ アウトLOOKの「ツール」メニューの「オプション」から「全般」タブを選ぶ。「起動時の設定」で、「使用するプロファイルを選択する」にチェックを付ける。



- ⑥ アウトLOOKを再起動すると、これ以降の起動時に、「プロファイルの選択」ウィンドウが表示されるようになる。ここで任意のプロファイルを選んで「OK」を押す。





リモートアクセスサーバーの設定をするには

自宅のコンピュータをダイヤルアップで呼び出し、ピアツーピアでノート

と接続する。これで、電話回線さえあれば、いつも使っているコンピュータの中身が参照できる。モデムやISDNを使ったところで、たいした速度は期待できないが、テキストファイル程度なら十分に活用できる。想像以上に便利な環境が作れるはずだ。

4

自宅のコンピュータにリモートアクセスしたい

ウィンドウズの場合

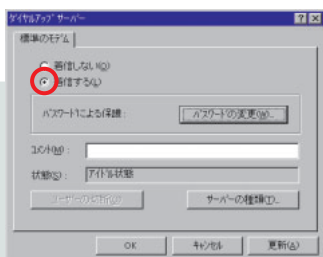


ウィンドウズでリモートアクセスサービスを実現するためには、ウィンドウズ95の場合ならマイクロソフトPlus!が必要だ。大事なことは、アクセスされる側とアクセスする側の双方で同じプロトコルを使うという点だ。プロトコルは自由に選べるが、通常の使用では、IPアドレスなどの設定が不要なNetBEUIを使うのがお手軽だ。

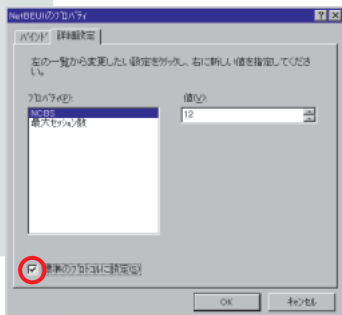
サーバー側（自宅のPC）の設定



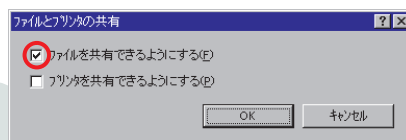
1 マイコンピュータからダイヤルアップネットワークを開き、「接続」メニューから「ダイヤルアップサーバー」を選ぶ。「着信する」にチェックを付けて、「OK」を押す。



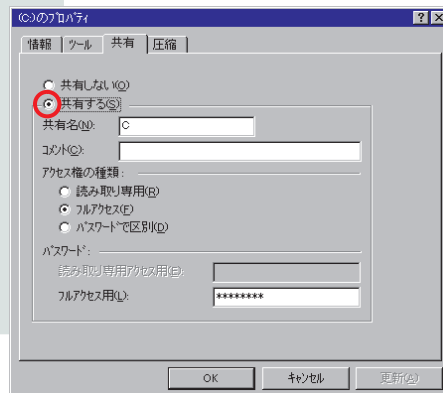
2 コントロールパネルから「ネットワーク」を開く。「現在のネットワーク構成」から「NetBEUI」を選んで「プロパティ」を押す。「詳細設定」タブを選び、「標準のプロトコルに設定」にチェックを付ける。「OK」を押す。



3 「ファイルとプリンタの共有」を押す。「ファイルと共有」を押す。「ファイルと共有」にチェックを付けて「OK」を押す。ここでコンピュータを再起動する。



4 再起動後にマイコンピュータを開く。リモートアクセス時に参照したいハードディスクやフォルダを右クリックして、「共有」を選ぶ。「共有する」にチェックを付ける。用途に合わせて「アクセス権の種類」や「パスワード」を設定する。電源をオンしておくのを忘れずに。



クライアント側（ノート）の設定

1 マイコンピュータから「ダイヤルアップネットワーク」を開き、「新しい接続」を開く。「接続名」に「自宅」など分かりやすい名前を付ける。



2 自宅のサーバーに接続するための電話番号を入れる。「次へ」「完了」の順に押す。



接続してみよう

1 ネットワークのプロパティにある「ユーザー情報」の「ワークグループ」を、サーバーとクライアントとで同名にする。また、サーバー側がモデムならクライアント側もモデム、TAなら両者ともTAを使うようにする。ただし、クライアント側が DATAなら、サーバー側はどちらでも構わない。

2 ノート側のダイヤルアップネットワークを開き、「クライアント側の設定」で作成したアイコンをダブルクリックする。サーバーにパスワードを設定した場合は、パスワードを記入する。「ユーザー名」は何でも構わない。「接続」を押す。

3 接続したら、ネットワークコンピュータを開く。ここに、自宅のコンピュータが表示される。表示されない場合は、スタートメニューの「検索」から、「ほかのコンピュータ」を選んで、自宅のコンピュータ名を入れる。「検索開始」を押せば見つかるはずだ。



マッキントッシュの場合

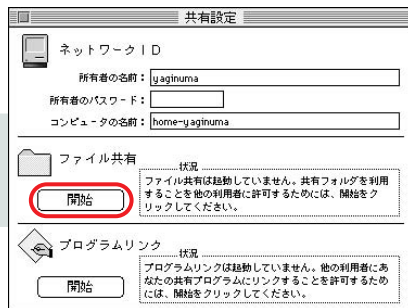


マッキントッシュでリモートアクセス環境を作る場合、サーバー側には「アップルリモートアクセス・パーソナルサーバ」が必要だ。クライアント側はMac OSのシステムディスクに同梱されている「リモートアクセスクライアント」を使う。また、サーバー側がモデムならクライアント側もモデムを、TAなら両者ともにTAを使うようにする。

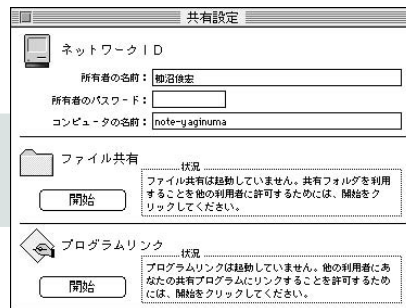
サーバー側（自宅のPC）とクライアント側（ノート）共通の設定



アップルメニューから「共有設定」を選ぶ。「所有者の名前」に自分の名字などを使って、自宅のPC側とノート側とに、両者を区別しやすい名前を付ける。「パスワード」は必要であれば設定する。「コンピュータの名前」も、両者を区別しやすいものを付ける。サーバー側は「ファイル共有」の「開始」を押す。



サーバー側の設定

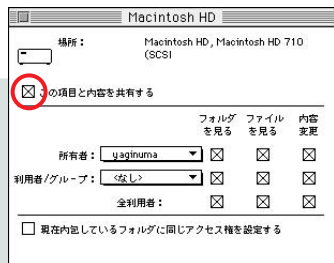


クライアント側の設定



サーバー側（自宅のPC）の設定

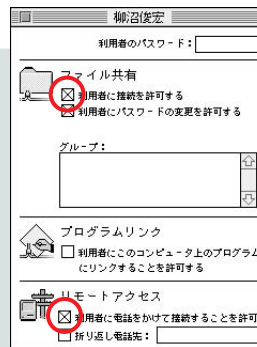
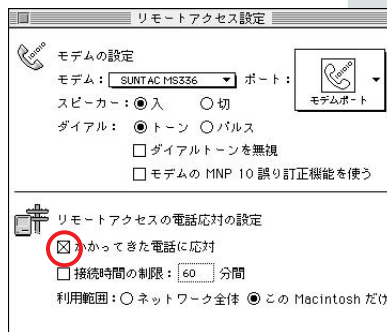
① ハードディスクを選んで、ファイルメニューから「共有」を選ぶ。「この項目と内容を共有する」にチェックを付ける。「全利用者：」の右の3つにすべてチェックを付ける。設定を保存する。



② コントロールパネルから「利用者 & グループ」を選ぶ。ファイルメニューから「新規利用者」を選び、新しくできたアイコンに先に設定したノート側の「所有者の名前」と同じものを付ける。



③ ②で作成したアイコンをダブルクリックする。「ファイル共有」の「利用者に接続を許可する」をチェックする。「リモートアクセス」の「利用者に電話をかけて接続することを許可」にチェックを付ける。設定を保存する。

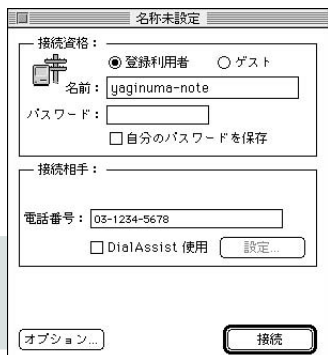


④ コントロールパネルの「リモートアクセス設定」を選ぶ。「モデム：」から自分の使っているものを選ぶ。トーンかパルスかを選択する。「かかってきた電話に回答」にチェックを付ける。「接続時間の制限」を設定すると、この時間後に切断されるので注意しよう。「利用範囲」は「このMacintosh だけ」にチェックを付ける。コンピュータの電源をオンにして、「リモートアクセスサーバ」を起動しておこう。



クライアント側（ノート）の設定

① リモートアクセスフォルダから「リモートアクセスクライアント」を起動する。「登録利用者」にチェックを付けて、電話番号に自宅の電話番号を入れる。「接続」を押す。



② 接続したら、アップルメニューから「セクター」を選び、「Apple Share」を押す。右の欄に自宅のコンピュータの名前が現れたら、これを選んで「OK」を押す。確認のウィンドウは、すべて「OK」を押す。



③ デスクトップに自宅のコンピュータのハードディスクアイコンが現れる。これをダブルクリックすれば、中身を参照できる。さらに、このアイコンのエイリアスを作成しておけば、次回からはこれをダブルクリックするだけで接続が始まる。切断はアイコンをゴミ箱に捨てるだけ。



海外のプロバイダーに加入するには

外国にいてもインターネットに接続できれば、普段とほとんど同じ環境が得られる。ただ、そのた

びに遠方から長距離電話や国際電話をかけていたのでは、インターネットの魅力は半減する。海外への移動が多いユーザーなら、現地のプロバイダーに加入しておきたい。ここでは、簡単にサインアップできる2つのプロバイダーを紹介する。

マイクロソフトネットワーク MSN の場合



ウィンドウズ95のユーザーなら、最も手軽にアカウントの取得ができる接続サービス。なんといっても、Windows 95があればほかに何も用意するものはなく、これだけで入会できてしまうのが手軽だ。日本で入会すれば、世界中どこにいても最寄りのアクセスポイントを利用できる。米国内のアクセスポイントの数は十分に満足できるものだ。なお、MSNのバージョンが変わったため、右記のURLにアクセスして、現在配布されている新クライアント用のCD-ROMを入手することをすすめる。この中に最新の電話帳データも含まれている。

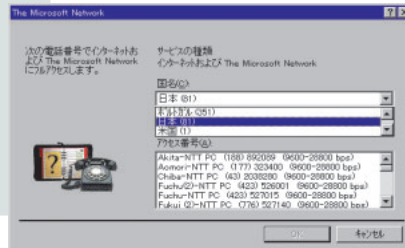
- 1 下記のURLで申し込みをすると、CD-ROMが郵送される。画面に従ってサインアップをする。

MSNウェルカムCD-ROM申し込み先：
<http://www.msn.or.jp/getcd/default.asp>

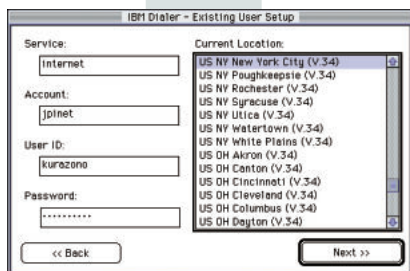


- 2 デスクトップにできたMSNアイコンを右クリックして「設定」を選び、「アクセス番号」を押す。「変更」を押す。

- 3 国名から現在の所在地を選び、「アクセス番号」から最寄りのアクセスポイントを選ぶ。

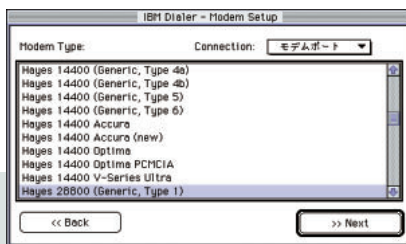


- 1 右記のURLから「インターネットアクセスキット」をダウンロードする。「New User」を押すとサインアップが始まる。



- 2 サインアップが終わったら、最初の画面から「Existing User」を押す。「Service:」の欄はそのまま、「Account:」を「jpinet」に変える。右の欄から現在の所在地を選ぶ。「Next」を押す。

IBM インターネットアクセスキットの入手先：
ウィンドウズ：
<http://www.ibm.co.jp/snsjinfo/index.html>
マッキントッシュ（英語版）：
<http://www.ibm.net/access/>



- 3 一覧のなかから、使用しているモデムを選ぶ。「Next」を押す。最後に「Done」を押すと、接続が始まる。

IBMインターネットコネクションの場合

日本国内ではネットパスポートと呼ばれているサービス。国内でのアクセスポイントの数は話にならないし、PIAFS対応はるか、ISDNさえサポートされていない（5月10日現在）。価格も決して安くはない。メインとしてはおすすめできないプロバイダーだが、さすがに世界のIBMであり、世界各国に散在するアクセスポイントの数は評価に値する。米国内なら聞いたことがないような田舎町まで、ヨーロッパなども含めて世界各国の主要都市をほとんどカバーしているといっていだろう。現在、世界50か国以上に470か所のアクセスポイントがある。

海外からアクセスできる国内プロバイダー

国内のプロバイダーであっても、海外に独自のアクセスポイントを持っている場合がある。また、国内のアカウントを提携先の海外プロバイダーで使用できる「ローミングサービス」を行っているところもある。上記の2社に申し込みをする前に、自分の加入しているプロバイダーが、海外にアクセスポイントを持っているかどうかを確認しよう。

ローミングサービスを行っているおもなプロバイダー
InfoSphere、KCOM、DTI、DREAM NETなど（5月15日現在）





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp